

◎ 指示があるまで開かないこと。

(令和2年2月13日 10時45分～12時00分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間15分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。  
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	③
④	●

→

(例 2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓			②	②	②	②	
102	①	②	●	④	⑤	③	→	●	③	→
						④	④	④	④	
						⑤	⑤	⑤	⑤	

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓			②	②	②	②	
103	●	②	③	④	●	③	→	③	③	→
						④	④	④	④	
						⑤	⑤	●	⑤	

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	●
104	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

①	②
0	●
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
●	9







1 28歳の初産婦。妊娠初期から膀胱炎を繰り返していた。妊娠28週に、排尿時の痛みと37.5℃の発熱を訴えてかかりつけの産婦人科を受診した。

腎盂腎炎と膀胱炎との鑑別で確認する所見はどれか。

1. 頻尿
2. 細菌尿
3. 残尿感
4. 腰背部の叩打痛

2 胎児期の免疫反応が出生後の発症の要因となる疾患はどれか。

1. 仮性メレナ
2. 先天緑内障
3. 慢性肺疾患
4. 未熟児貧血

3 妊婦に投与された薬物と胎児への影響との組合せで正しいのはどれか。

1. アミノグリコシド系抗菌薬 ————— エナメル質形成不全
2. アンギオテンシン受容体拮抗薬 ————— 臍帯ヘルニア
3. チアマゾール ————— 肺低形成症
4. 非ステロイド抗炎症薬 ————— 動脈管収縮

4 A 病院の助産師は、出産予定の初産婦の実母・義母を対象に「産後の母乳育児のサポート」をテーマとした「孫育て教室」を計画している。

教室に参加する実母・義母に関する情報で優先されるのはどれか。

1. 家族形態
2. 就労経験
3. 出産回数
4. 母乳育児経験

5 頭臀長〈CRL〉の計測によって分娩予定日を正確に診断できる妊娠時期はどれか。

1. 6 週
2. 9 週
3. 12 週
4. 15 週

6 産科の診療所で妊婦健康診査を受けている妊婦が妊娠中期に前置胎盤と診断された。

出血や子宮収縮がなく妊娠が経過している場合に、高次施設への紹介のタイミングとして推奨される時期はどれか。

1. 妊娠 33 週 0 日未満
2. 妊娠 33 週 0 日以降 35 週 0 日未満
3. 妊娠 35 週 0 日以降 37 週 0 日未満
4. 妊娠 37 週 0 日以降



7 新生児の低体温によって起こる生体反応で正しいのはどれか。

1. ノルアドレナリン分泌低下
2. 代謝性アルカローシス
3. 末梢血管拡張
4. 肺動脈収縮

8 月齢2か月の男児。在胎30週3日、常位胎盤早期剝離のため緊急帝王切開で出生した。出生体重1,515g。Apgar〈アプガー〉スコアは1分後1点、5分後4点、10分後8点。現在、全身状態は良好だが、退院前の頭部MRI検査で多発性嚢胞性病変を認めた。MRI検査所見(別冊No. 1)を別に示す。

この児の予後で最も考慮する疾患はどれか。

1. 難聴
2. 水頭症
3. 脳性麻痺
4. 下垂体機能低下症

別冊 No. 1
-------------

9 産婦健康診査事業で正しいのはどれか。

1. エジンバラ産後うつ病質問票〈EPDS〉による問診が必須である。
2. 児の診察が健康診査に含まれる。
3. 産後2か月までが対象となる。
4. 全額公費負担となる。

10 院内助産において分娩時の出血時に助産師が自らの判断で行う対応で適切なのはどれか。

1. 昇圧薬の投与
2. 胎盤用手剥離
3. 輸血開始の決定
4. 膣内ガーゼ充填

11 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)に定められている配偶者からの暴力に関する医療関係者の対応で正しいのはどれか。

1. 通報先は児童相談所である。
2. 通報することは守秘義務に反する。
3. 事実上婚姻関係にある被害者については通報できない。
4. 配偶者暴力相談支援センター等の利用について被害者に情報提供する。

12 助産所で妊婦健康診査を受けた妊婦の所見で、嘱託医師への相談・報告が必要なのはどれか。

1. 妊娠 25 週で骨盤位であった。
2. 妊娠 29 週で胎児心拍数基線が 155 bpm であった。
3. 妊娠 34 週で悪心・嘔吐の訴えで来所した。
4. 妊娠 37 週で 1 時間に 4 回以上の子宮収縮がみられた。

13 産科医療補償制度再発防止委員会の報告書に基づき、常位胎盤早期剝離に関する妊婦や家族に行う保健指導はどれか。

1. 禁酒
2. 厳密な体重管理
3. 入院による安静の確保
4. 気になる症状がある場合の医療機関への早期連絡

14 新生児溶血性疾患で正しいのはどれか。

1. 日齢 10 以降に発症する。
2. 末梢血中の網赤血球が減少する。
3. 間接ビリルビン優位の高ビリルビン血症となる。
4. ABO 不適合溶血性疾患は母親の血液型が AB 型の時に発症する。
5. RhD 不適合溶血性疾患は第 2 子より第 1 子の発症リスクが高い。

15 卵巣で正しいのはどれか。

1. 内胚葉由来の臓器である。
2. 子宮と卵巣堤索で連絡する。
3. 卵胞は卵巣皮質に存在する。
4. 卵胞刺激ホルモン〈FSH〉を産生する。
5. 原始卵胞数のピークは 30 歳代である。

16 乳癌で正しいのはどれか。

1. 超音波検査によって診断が確定する。
2. 好発年齢は 20～30 歳代である。
3. 授乳期には発見が遅れやすい。
4. 腫瘍の可動性は良好である。
5. 圧痛を生じることが多い。

17 経口避妊薬の服用が禁忌となるのはどれか。

1. 授乳中である。
2. BMI 25 である。
3. 子宮内膜症の既往がある。
4. 1日5本の喫煙をしている。
5. 子宮頸部円錐切除術後である。

18 流産を繰り返している夫婦の原因検索を行ったところ、均衡型転座が確認された。

この夫婦に対する次回の妊娠での流産再発率を低減させる治療法はどれか。

1. 免疫グロブリン療法
2. 夫のリンパ球免疫療法
3. 着床前診断後の胚移植
4. 低用量アスピリン療法
5. プロゲステロン補充療法

19 Aさん(29歳、初産婦)。妊娠経過は正常。妊娠9週の経膈超音波検査で、左卵巣内に5cmの嚢胞が確認された。嚢胞は単房性で、内部に充実成分はなかった。妊娠13週に再度、経膈超音波検査が行われ、左卵巣内の嚢胞は2cmに縮小していた。

この左卵巣嚢胞の種類で最も考えられるのはどれか。

1. 妊娠黄体
2. 皮様嚢腫
3. 卵巣妊娠
4. 粘液性嚢胞腺腫
5. 子宮内膜症性嚢胞

20 分娩経過中に、胎児心拍数陣痛図上で変動一過性徐脈の発生のリスク因子となる胎児付属物の所見はどれか。

1. 副胎盤
2. 臍帯偽結節
3. 臍帯長40cm
4. 臍帯辺縁付着
5. 胎盤の石灰沈着

21 出生直後の新生児の所見で早急に医師への報告が必要なのはどれか。

1. 産 瘤
2. サーモンパッチ
3. 耳瘻孔
4. 臍帯ヘルニア
5. 処女膜ポリープ

22 乳幼児健康診査における神経発達の評価で視覚障害を疑う所見はどれか。

1. 生後1か月、片目に眼脂を認める。
2. 生後3か月、目が小刻みに揺れる。
3. 生後6か月、顔に掛けられたハンカチを払いのける。
4. 生後18か月、鉛筆でぐるぐる丸を書く。
5. 生後24か月、赤信号を進もうとする。

23 Aさん(36歳、初産婦)。妊娠分娩の経過に問題はなく正常分娩で男児を出産した。現在産後1か月。産後は実母の支援を受けて育児をしており、児の体重増加も順調である。Aさんは「実は女の子が欲しかった。この子がかawaiiとは思えない」と言う。

Aさんの状況のアセスメントはどれか。

1. マタニティブルーズ
2. ボンディング障害
3. 産褥精神病
4. ネグレクト
5. 育児不安

24 Aさん(32歳、1回経産婦)。第1子は経膈分娩後にB群溶血性連鎖球菌〈GBS〉感染症を発症した既往があった。今回、妊娠35週で行った膈周囲培養検査でB群溶血性連鎖球菌〈GBS〉は検出されなかった。

Aさんの第2子のB群溶血性連鎖球菌〈GBS〉感染症予防のための対応で正しいのはどれか。

1. 膈周囲培養検査を再度行う。
2. 膈内の洗浄を行う。
3. 帝王切開分娩を予定する。
4. 陣痛発来あるいは前期破水後に抗菌薬を点滴投与する。
5. 出生した児の皮膚消毒を行う。

25 第1前方後頭位で正常に分娩が経過している。現在、内診所見で先進部下降度はStation +3、矢状縫合は斜径である。

この時の分娩進行状態で正しいのはどれか。

1. 児頭の最大周囲径の位置は骨盤出口部である。
2. 産瘤が児頭の右前頭部に形成されている。
3. 内診で恥骨結合後面は下縁のみ触れる。
4. 内診で大泉門を母体の前方に触れる。
5. 児頭は発露の状態である。

26 四つん這い分娩の特徴で正しいのはどれか。

1. 介助者は産婦の表情を観察しやすい。
2. 回旋異常が自然に矯正されやすい。
3. 胎児の一過性頻脈が起こりにくい。
4. 骨盤出口部が拡大しやすい。
5. 産婦が腹圧をかけにくい。

27 在胎 36 週 0 日、出生体重 2,000 g で出生した男児。後頭部の頭皮欠損、小頭症、前額部の血管腫、小眼球症や鼻梁の盛り上がり、口唇口蓋裂および多指症を認めた。

児の身体的特徴から考えられる疾患はどれか。

1. 13 トリソミー
2. 21 トリソミー
3. 22 q 11.2 欠失症候群
4. Turner〈ターナー〉症候群
5. Klinefelter〈クラインフェルター〉症候群



28 出生後2か月ころまでの乳児がビタミンK欠乏性出血症を発症するリスクが高くなる要因はどれか。

1. 妊娠中の抗てんかん薬の服用
2. 高年初産の母体
3. 正期産での分娩
4. 人工乳栄養
5. 女児

29 日齢0の新生児。在胎週数36週0日、頭位経膈分娩で出生。出生体重2,300g。外表所見より18トリソミーが疑われて入院となった。入院後の検査で単心室、重症心不全、食道閉鎖を認め、外科治療は可能だが、手術後1か月以上延命できる可能性は低いと判断された。

両親への対応で適切なのはどれか。

1. 外科手術を受けることを勧める。
2. 母親への説明は父親を通して行う。
3. 治療方針が決定するまで面会を制限する。
4. 看取りの医療の選択肢について説明する。
5. 入院当日は重篤な状態であることの説明は避ける。

30 均衡型胎児発育不全を呈する不当軽量児の特徴で正しいのはどれか。

1. 双胎児に多い。
2. 頭囲の発育は保たれる。
3. 妊娠 28 週以降に発現する。
4. 先天奇形の合併頻度が高い。
5. 不当軽量児の大多数を占める。

31 日本で実施されている全国調査のうち、DOHaD 学説が調査の基盤概念となっているのはどれか。

1. 乳幼児栄養調査
2. 国民生活基礎調査
3. 全国家庭児童調査
4. 乳幼児身体発育調査
5. 子どもの健康と環境に関する全国調査〈エコチル調査〉

32 抗不安薬内服中の妊婦から出生した新生児に認められる薬物離脱症候群の症状で注意するのはどれか。2つ選べ。

1. 嘔吐
2. 発疹
3. 頭囲拡大
4. 無呼吸発作
5. 頭頂部の皮膚剝離

33 羊膜で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 血管がない。
2. 羊水を分泌する。
3. 胎生 42 日目に形成される。
4. エストロゲンが分泌される。
5. 子宮内膜から分化したものである。

34 羊水過多症に伴い母体に生じる症状はどれか。2つ選べ。

1. 多 尿
2. 発 熱
3. 不 眠
4. 子宮収縮
5. 食欲亢進

35 異所性妊娠で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 卵管間質部妊娠の頻度が最も高い。
2. クラミジア感染症がリスク因子となる。
3. 黄体形成ホルモン〈LH〉値測定が診断に有用である。
4. 妊娠 4 週で子宮内に胎嚢を認めない場合に診断される。
5. 薬物療法としてメトトレキサートが用いられる。

36 Naegele〈ネーゲレ〉鉗子による急速遂娩で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 矢状縫合が横径の場合に適応となる。
2. 鉗子柄を左右に動かして牽引する。
3. 娩出完了まで会陰保護は行わない。
4. 吸引分娩より牽引力が強い。
5. 膀胱を空にして実施する。

37 播種性血管内血液凝固(DIC)を発生しやすい基礎疾患として産科DICスコアで加対象となっているのはどれか。2つ選べ。

1. 羊水塞栓症
2. 癒着胎盤
3. 妊娠糖尿病
4. 常位胎盤早期剝離
5. 仰臥位低血圧症候群

38 母乳ケア外来で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 集団指導を中心とする。
2. 乳房ケア以外に心理的サポートも行う。
3. 卒乳に関する相談は産科外来を紹介する。
4. 対象の基準は出産後1年までの母親とする。
5. 母乳ケア外来の評価を入院中の母乳育児ケアに活用する。

39 平成 27 年(2015 年) 3 月に制定された少子化社会対策基本法に基づく少子化社会対策大綱(第 3 次)の重点課題にあげられているのはどれか。2 つ選べ。

1. 男女の働き方改革
2. 若い年齢での結婚・出産の希望の実現
3. 若者の自立とたくましい子どもの育ち
4. 思春期の健康対策の強化と健康教育の推進
5. 生命の大切さ、家庭の役割等についての理解

40 助産所の開設で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 医療法に規定されている。
2. 開設者は助産師免許が必要である。
3. 開設届は都道府県知事に提出する。
4. 無床の助産所の開設届は不要である。
5. 1 人の助産師が同時に 2 か所以上の開設はできない。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

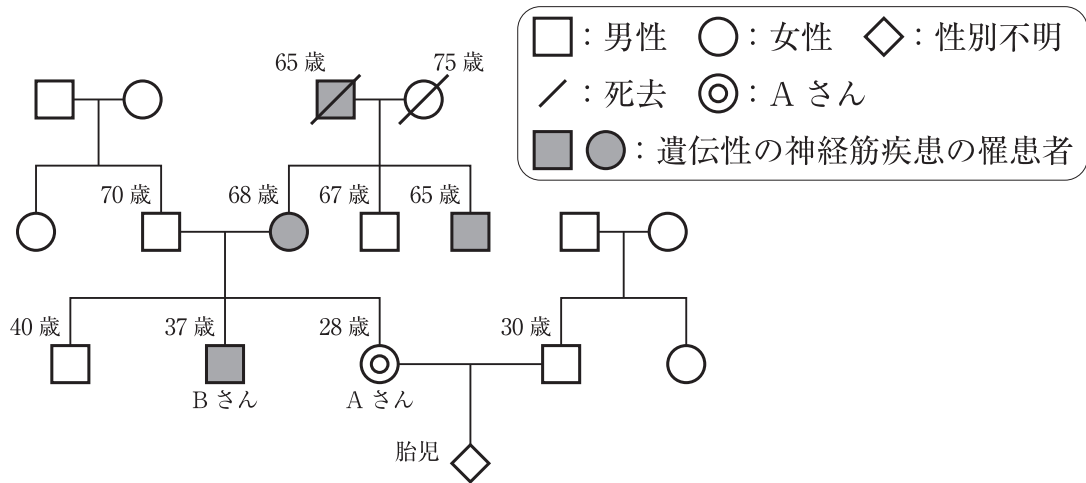
A さん(28 歳、初妊婦)。自然妊娠して病院の産婦人科で妊婦健康診査を受け、妊娠経過は順調であった。夫婦関係は良好で、夫は出産を非常に楽しみにしている。

妊娠 24 週の受診時に、A さんは助産師に実兄の B さん(37 歳)について話をした。B さんは 3 年前から体が疲れやすく、握った指が開きにくい症状があり、神経内科を受診したところ検査の結果、遺伝性の神経筋疾患の診断を受けたという。A さんは、B さんの病気が今回の胎児に影響することを心配している。B さんの病気については夫に話しておらず、今のところ A さんには自覚症状はない。

41 この時点での A さんへの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 出産するまで悩まないよう励ます。
2. 成人した後に発症する病気であると説明する。
3. 次回の妊娠では児に遺伝する可能性が高まると説明する。
4. B さんの病気について夫と情報共有することを提案する。

42 その後、A さんは B さんから詳しい診療情報を入手して、妊娠 26 週の妊婦健康診査の際に助産師に渡した。B さんの主治医が作成した家系図によると、B さん以外にも A さんの実母および実叔父、実祖父にも B さんと同様の疾患が発症していた。A さんと B さんの家系図を示す。



Aさんの家系における遺伝性疾患の遺伝形式で可能性が高いのはどれか。

1. 母系遺伝
2. X連鎖優性遺伝
3. X連鎖劣性遺伝
4. 常染色体優性遺伝
5. 常染色体劣性遺伝

43 その後、妊娠30週の妊婦健康診査で胎児の解剖学的構造の異常はないが、羊水量が多いことが確認された。Aさんは産科医の勧めで、神経内科の診察と筋電図検査を受けたところ、Bさんと同じ疾患を有する可能性が高く、診断確定には遺伝子の検査が必要であると説明を受けた。Aさんは産科医と助産師に、分娩前に胎児に遺伝する可能性について調べる方法があるかどうかを質問した。

胎児の罹患の確定診断が可能な検査はどれか。

1. 羊水検査
2. 胎児MRI検査
3. 胎児心拍数陣痛図
4. 母体血清マーカー検査
5. 非侵襲的出生前検査〈NIPT〉

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

Aさん(30歳、2回経産婦)。第2子分娩後に腹腔鏡下子宮筋腫核出術の既往があるが、経膈分娩は可能と診断されていた。妊娠経過は順調であった。妊娠40週0日、陣痛発来にて入院となった。入院1時間後の時点で破水し、その後陣痛が増強した。さらに2時間が経過し、Aさんは額に汗を浮かべながら陣痛に耐えている。内診所見では既破水、子宮口全開大、Station +2であった。

44 この時点の胎児心拍数陣痛図(別冊No. 2)を別に示す。

胎児心拍数陣痛図の所見で正しいのはどれか。

1. 一過性頻脈
2. サイヌソイダルパターン
3. 早発一過性徐脈
4. 遅発一過性徐脈
5. 変動一過性徐脈

別 冊 No. 2
--------------



45 児娩出後 30 分が経過したが、胎盤剝離徴候がみられないため、医師によって胎盤用手剝離が行われて胎盤娩出となった。胎盤娩出後 30 分の時点で赤色の性器出血が持続しており、胎盤娩出後の出血量が 300 mL を超えた。A さんは間歇的に軽度の下腹部痛を訴えているが、バイタルサインは正常である。子宮頸管や腔壁および会陰に異常所見はない。子宮底は臍高の位置に硬く触れる。

この時点での助産師の対応で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 下腹部を温める。
2. 輸血の準備をする。
3. 子宮底の輪状マッサージを行う。
4. 胎盤実質の欠損の有無を確認する。
5. 子宮内腔バルーン圧迫法の準備をする。

46 産褥 3 日の午後、A さんは悪寒と発熱を自覚した。バイタルサインは体温 38.8℃、血圧 125/75 mmHg、呼吸数 25/分である。乳房は緊満しており軽度熱感があるが、痛みはない。子宮に圧痛があり、子宮底は臍高でやや軟である。経腹超音波検査では子宮内に悪露の貯留があるが、子宮体部筋層の異常はなく、腹腔内の出血は認めない。血液検査で白血球 15,300/ $\mu$ L、Hb 11.3 g/dL、血小板 12 万/ $\mu$ L、CRP 4.2 mg/dL であった。

A さんの発熱の原因で考えられるのはどれか。

1. 乳腺炎
2. 子宮破裂
3. 子宮内膜炎
4. 生理的な子宮復古
5. 妊娠高血圧症候群

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

Aさん(43歳、経産婦、専業主婦)。夫(45歳、会社員)と男児(2歳)と3人暮らし。妊娠11週3日。Aさんは「つわりがつかなく、食事がしっかり摂れていません。水分は気を付けて摂っています」と言う。身長160cm、体重63kg(非妊娠時から-1kg)。血圧132/80mmHg。Hb 10.6g/dL、Ht 33%。尿蛋白(-)、尿ケトン体(-)。胎児は頭臀長<CRL>55mm、胎児心拍が確認された。

47 Aさんの妊娠経過の診断で正しいのはどれか。

1. 貧血
2. 重症妊娠悪阻
3. 胎児発育不全
4. 高血圧合併妊娠

48 妊娠30週0日。体重75kg。血圧142/90mmHg。尿蛋白+、浮腫+。時々腹部が張る感じがすると話す。推定胎児体重1,500g、胎児心拍正常。医師から1週後に受診するようにとの指示があった。Aさんは「自宅で血圧を測るとそんなに高くありません。子どもの世話もあるし、入院となると困ります」と言う。

助産師がAさんに行う生活指導で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「水分摂取を控えましょう」
2. 「毎日ウォーキングをしましょう」
3. 「自宅での血圧測定を続けましょう」
4. 「家事や育児の合間には安静を心がけましょう」
5. 「摂取エネルギーは、1日1,600kcal程度にしましょう」

49 妊娠 35 週 0 日。妊娠 30 週以降、血圧上昇はなく経過している。A さんは「前回のお産は、時間がかかってつらかったのでお産が不安になってきました。バースプランはまだ立てていません。今回は最後のお産だと思うので、よい体験にしたいです」と助産師に話す。

A さんへの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 「前回より短時間で出産できますよ」
2. 「無痛分娩を検討してはどうでしょうか」
3. 「分娩中の過ごし方について一緒に考えましょう」
4. 「次回の健康診査までにバースプランを完成させてください」

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

A さん(39 歳、1 回経産婦)。妊娠中の経過は順調であった。妊娠 40 週 2 日、陣痛が開始したため入院となった。午前 1 時 30 分、陣痛は 2～3 分間欠、発作は 40～50 秒。午前 2 時 00 分に破水。「便がしたい感じ。どうしてこんなに痛いのか」と言いながら強くいきんでいる。内診所見は子宮口 7 cm 開大、展退度 90 %、Station +1。

50 このときの助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 食事摂取を勧める。
2. 陣痛発作時に弛緩法を促す。
3. 短息呼吸の方法を指導する。
4. 分娩体位を整え努責を誘導する。

51 午前 3 時 30 分、3,560 g の男児を正常分娩した。Apgar〈アプガー〉スコア 1 分後 9 点、5 分後 9 点。午前 3 時 35 分に胎盤娩出。分娩時の会陰切開は行わず、産道裂傷は認めなかった。胎盤娩出後、子宮収縮は良好で出血も速やかに止まった。3 期までの出血量は約 450 mL であった。午前 4 時 30 分、A さんは「下腹部の方が徐々に痛くなり、痛みが止まりません」と訴えて顔をしかめている。脈拍 116/分、血圧 90/60 mmHg。子宮底の硬度良好で、外出血はパットに少量である。外陰部には明らかな異常を認めないが、膣の左側の奥の方が顕著に膨隆している。

A さんの状況で考えられるのはどれか。

1. 不全子宮破裂
2. 羊水塞栓症
3. 頸管裂傷
4. 弛緩出血
5. 膣壁血腫

52 医師の処置を受けて A さんの状態は安定し、痛みも軽減した。分娩後 4 時間の時点で助産師とともに初回歩行を行ったところ、気分不快を訴えたため車椅子でベッドに戻った。A さんのバイタルサインは脈拍 94/分、血圧 100/50 mmHg。分娩後の総出血量 1,600 mL であった。出生後の児の状態は良好である。ベッドに戻った A さんは児との面会を希望した。

この時点での A さんと児への対応で適切なのはどれか。

1. 母児同室を開始する。
2. 早期母子接触を実施する。
3. 新生児室内で児と面会する。
4. 病室で短時間の面会を行う。
5. 翌日までは面会を行わない。

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

A さん(36 歳、初妊婦、専業主婦)。B 市在住で、夫(35 歳、会社員)と 2 人暮らし。A さんは双胎妊娠で、妊娠高血圧症候群を合併していたため、妊娠 34 週から管理入院していた。本日、妊娠 37 週 4 日。腹痛と性器出血があり、常位胎盤早期剝離と診断され、緊急帝王切開分娩となった。第 1 子は女児で出生時体重 2,500 g、Apgar〈アプガー〉スコア 1 分後 5 点、5 分後 8 点であった。第 2 子は男児で出生時体重 2,350 g、Apgar〈アプガー〉スコア 1 分後 2 点、5 分後 2 点。出生後 2 時間で死亡した。

53 第 2 子について必要な対応はどれか。

1. 出生証明書の交付
2. 死産証書の交付
3. 死胎検案書の交付
4. 異常死産児の届出

54 病棟師長は A さんの分娩を担当した助産師に、速やかに助産録を記載するよう伝えた。

担当助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 第 1 子用と第 2 子用の 2 部作成する。
2. 分娩経過記録の記載を手術室看護師に依頼する。
3. 妊娠高血圧症候群に関する記載は医師の診療録に委ねる。
4. 緊急手術に関するインフォームド・コンセントの内容を記載する。

55 産褥4日。Aさんは第2子の葬儀のため外出し、産褥6日から母児同室となった。時々流涙することがあったが「夫とともにがんばってこの子を育てたい」と助産師に話した。産褥14日で退院となった。退院前日、面会に来た夫から助産師に対して「出産育児一時金について教えてほしい」と相談があった。Aさんは夫の扶養家族である。

夫への説明で正しいのはどれか。

1. 「お子さん2人分が支給されます」
2. 「居住地のB市から支給されます」
3. 「正常分娩ではなかったので支給されません」
4. 「Aさんは被保険者ではないので支給されません」











